

# するがのくに かわら版

第11号

平成 20 年 6 月 10 日発行

株式会社 スルガ不動産総業  
〒410-0873 静岡県沼津市大諏訪593-1  
TEL 055-926-0260  
FAX 055-926-0262  
e-mail iida@suruga-fudousan.co.jp  
http://www.suruga-fudousan.co.jp

## 梅雨入り歓迎宣言?



6月、このかわら版が皆様のもとへ届くころには梅雨入りしてるかも…なんてことを書いていたら、東海地方、梅雨入りしてしまいました。今年は早いですね。それじゃあ、明けるのも早い?と思いきや、そうとは限らないようです。

童謡【あめふり】のように無邪気に雨をうれしく思えたらいいのですが、日々の生活に密着すると、なかなかそんな気分にもなれず、チョットイライラしがちかも…。

実りのため、命のためヨ!と、もっと歓迎すべきかしら…  
ひとまずきれいな紫陽花でも眺めて気持ちを切り替えましょ!



## 主婦が行く!

～応急処置、鼻血は寝かすな!～

先日の旅行中。さあそろそろ寝るかという頃、下の子のトイレに付いていた私に、4才の長女が「お母さん、はなぢ…」と血が滲んだティッシュを持って静かにやってきた。本人に聞いたところ、ひどくいじったり、どこかにぶつけた様子もなさそうだが「おう、まだちょっと出てきそうだ」と思い、トイレを離れ、長女の頭に座布団1枚敷いて寝かせると、栓をする間もないほどに鮮血が流れ出て、嗚咽と共に吐血。これはまずいと急いで隣の部屋の母を呼ぶ。ホテルのフロントに連絡するが、処置できる人や、来てくれる医者も近くにはないらしい。ならば119番呼んで!電話で説明している間にも状況は悪化、もう一方の鼻からも出てくるし、さらに吐血。あせる自分を落ち着かせ、電話口の救急隊の指示通りに上体を起こし、鼻上部の骨の下あたりをしっかりとつまんでいると、まもなく隊員が。と同時に幸い血も止まった。出血からこの間30分くらいだったのだろうか。(途中電話でも出血時間を聞かれ、15分か20分くらいと答えたが正直なところわからなかった。)念のためそのまま病院へ行くが、先生からは子供にはよくあることで出血も微量、止血もされたし特別心配いらないとのこと、ホテルに戻った。フウ〜っ ……ピリョウ…微量?あれは微量?!

鼻血って慣れない人からすると、ポタッと垂れるくらいに出ただけで結構ビックリして、なかなか止まらないとかなりの大量出血を感じるらしい(確かに…)。そして思い返せば、あれだけ溢れるように出ていたものが指示後、わりとあっさり止まったっけ。正しい処置を知っていれば、多分吐血も、救急車を呼んで病院へ行く事もなかったのだろうと、つらい思いをした子供にも、心配をかけた皆さんにも申し訳なく、反省するばかりです…事なきを得て言えることですが、貴重な経験をさせていただきました。

今回の処置は一般的な状況として受けた処置法であり、止血が困難・血液疾患がある・割箸等を刺してしまったなどの場合は、やはり病院で特別な処置等受ける必要があるそうです。

ちなみに『上を向いて首の後ろをトントンすると良いとききますが』の問いには、先生も『ないでしょう』と。



## 今月のSURUGA-MAN

わが社の社員たちがローテーションで  
コラムを掲載します。

ミャンマーの巨大サイクロンによる水害、中国では四川省の巨大地震、十万人を超える人々が亡くなり、何百万人という人々が今日をどう生きていこうかと路頭に迷っています。それだけでなく日々の生活は決して豊かでない人々の上に襲い掛かる天変地異、天は何を云おうとしているのか? その国の悪政に対する警告か! 人類に対する警告か!

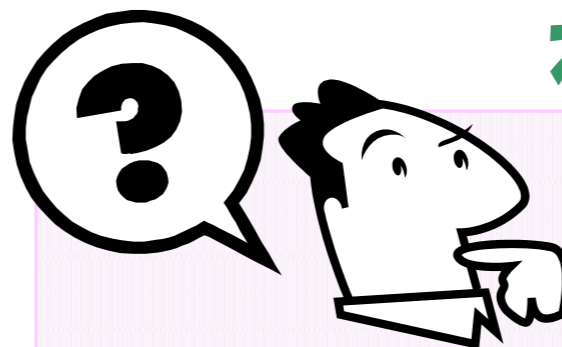
この現実を見せられて日本人として生まれてよかった!と思うのと同時に日本人として反省させられる事ばかりです。

多くの日本人は、自分で創り出す事を忘れ、衣食足り、住環境にも恵まれ、自動車や電化製品を初め物に溢れ何時しかそれが当然の事と思うようになってしまい“まだ”“もっと”と物質的欲望は止まる事を知りません。個人主義が台頭し武士道に象徴される様な精神的価値観は何時しか忘れ去られ、人と人との関係も希薄となり、自殺者は増加の一途であり、家族間での殺人も後を絶ちません、これが現在のわが国の姿ではないでしょうか。

わが国は世界経済のグローバル化の中で従来の政府主導の管理経済から市場経済主義にならざるを得なく、この流れは当面は変わる事はないでしょう。またCO2に代表される地球環境問題も経済問題と相関関係にあり切り離す事は出来ません。

高齢化社会を迎えたわが国です、私たち一人一人が古き良き日本を振り返り、原点に立ち“自分の為よりも他人の為に”“夫々が責任を持ち”“明るく陽気に”なんて気持ちで生きて行きましょう。

“きっと良い事が貴方の周りに起こるでしょう”



## 不動産ナビ



世帯構成の変化により

住まいの考え方も変わる!

最近の世帯構成の様変わりにはちょっとびっくりします。長い間四大家族構成が核となり全体の六割から七割を占めていたのが、今では一人ないし二人世帯が全体の七割弱です。核家族化している所に少子高齢化で益々単独世帯が増加しています。ちなみに六十代以上の単独世帯の増加率は15年前と比べると334%増です! 当然住まいの考え方も大転換します。単独及び二人世帯の人達はまず中心立地で考え利便性や人の活気を求めます。高齢者は特に病院に近い、駅に近い等は必須でしょう。成程中心地マンションはよく売れています。そして郊外の過疎化により、郊外の地価は益々下がり、中心地は反転し上がり始めるでしょう。中心地に居を構え、セカンドハウスとして安く郊外地を購入し、週末は畑を楽しんだりする多彩なライフスタイルも、地価の二極化により現実となる可能性が広がってきました。